

# 常陸太田市×茨城大学×YWC 学生と考える将来の水道

常陸太田市上下水道部と茨城大学工学部都市システム工学科、横浜ウオーターサイド講義」を実施した。講義は10月～11月にかけて3回行われ、国や中小企業診断士までが講師となつて水道事業をとりまく話題を披露。同市の水道関係施設も見学して経営・技術の両面に理解を深めた。11月11日開かれた第3回で、学生が同年代への広がりを意識した「将来あるべき水道の姿」をとりまとめた。講義はYWCが前年度に続き「企画運営業務」を受託した一環。

10月14日には第1回座学を実施。講師に国土交通省上下水道審議官グループを交え、セミナー形式で、水道事業の基礎事項を中心としたテーマについて講義した。

同社上下水道部上水道企画室の永峯知徳室長は、「水」「水道の歴史」「水道のシステム」について講義。水資源の希少性、江戸時代から近代に至るまでの普及率向上・整備拡大の状況、浄水場から各家庭に水道水が届く仕組みなどを解説した。

国交省水管理・国土保

護省上下水道企画課の浦原翔太専務官は、水道啓発の取組みや水道事業が抱えている問題を中心に

ついてオンラインで講義。市町村や都道府県と協力し、政策の検討や補助、災害対応などをメイン業務とする一方、水道を詳しく理解してもらうために、経営や施設の耐震化などの状況を周知する取組みにも励んでいることを伝えた。

同社上下水道部上水道企画室の日本一郎担当部長は「水道事業の課題」について講義。水道管や施設は老朽化が進み、耐震化にも取り組む必要がある中、人口減少の影響（料金回収率の低下、水道料金収入の減少、人手不足など）で安全な水の持続が困難に直面していることなどを話した。

10月21日には、経営に関する2回では、経営に関する座学と、施設見学の両面で水道事業への理解を深めた。座学は茨城県

茨城県中小企業診断士協会の米永斎理事は、企業における会計は共通言語かつ測位システムに当たるものとして役割を伝

えつつ、減価償却の概念などを講義。自身もエンジニアだと明かし、工学系の材質でも、数字を理

解することが重要かつ武

大さく老朽化も進むが、工夫をしながら更新・耐震化を進めていると説

明。水道事業に携わるやりがいや達成感も学生へアピールした。

また日本部長は、さら

に公営企業会計および独立採算制のもとで行われる水道事業経営にフィード

チャードして説明。異なる

座学と、施設見学の両面で水道事業への理解を深めた。座学は茨城県

茨城県中小企業診断士協会の米永斎理事は、企

業における会計は共通言語かつ測位システムに当たるものとして役割を伝

えつつ、減価償却の概念

などを講義。自身もエン

ジニアだと明かし、工学

系の材質でも、数字を理

解することが重要かつ武

大さく老朽化も進むが、

工夫をしながら更新・耐

震化を進めていると説

明。水道事業に携わるや

りがいや達成感も学生へ

アピールした。

また日本部長は、さら

に公営企業会計および独

立採算制のもとで行われる水道事業経営にフィード

チャードして説明。異なる

座学と、施設見学の両面

で水道事業への理解を

深めた。座学は茨城県



藤田市長



藤田教授



高坂さん



浄水場内を見学



学生の成果発表

## 関係者から多様な話題

「いま知りたい水道」に

国交省職員による講義

3本立て。

常陸太田市からは同市

</